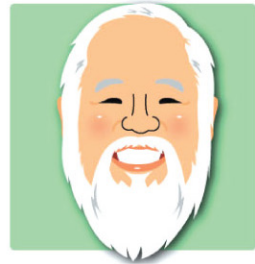


「もう一つの外部評価委員会」

帝塚山大学 心理学部教授 心のケアセンター長

三木 善彦

Yoshihiko Miki



この大学教育推進プログラムを客観的に評価する学外の有識者の外部評価委員会がありますが、もう一つの非公式の外部評価委員会があるをご存じでしょうか。

いえ、何も組織された委員会ではありませんが、実はこの大学教育推進プログラムに参加した人たちの評価です。その人たちがどのように評価なさっているか、を自由記述方式で回答していただきました。そのすべてを紹介するには紙面に余裕がありませんので、そのうちのいくつかを記しましょう。

まずは、「新しい自分との出会い」というタイトルで報告してくださった、交野市教育委員会指導課のスタッフの評価を紹介しましょう。

「教諭で3年間、市教育委員会で2年間、アドベンチャーカウンセリングの取り組みに関わることができました。この5年間の取り組みと成果を短文で著すことは大変難しいことですが、少しでもお役に立てればと思っております。

さて、アドベンチャーカウンセリングに取り組んでいる2校の教職員からは、子どもたちの規範意識が高くなり、教職員が大きな声を出さなくても学校のルールを守れるようになってきたという感想を聞きます。1校では、学校教育自己診断の児童アンケートで「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童が多くなり、それに比例して不登校児童の数も減少しました。さらに、大阪府学習状況調査の児童アンケートでは、『自分には良いところがあると思いませんか』等の自尊感情を問う質問項目で肯定的に答える児童の割合が2校とも高いという結果が出ております。

これは、アドベンチャーカウンセリングのプログラムの中で一人ひとりの人格が尊重されることにより、クラス・学年、そして学校生活の中で『心の安全』が得られた子どもたちが増えてきた結果であると思われます。アドベンチャーカウンセリングでは、『プログラム体験、振り返り』を繰り返すことにより、子ども

たちも教師も心の壁が下げられ、お互いの人格を最大限に尊重できる集団が無理なくできていくことを実感することができました。これからも、交野市の子どもたちと教職員が一人でも多く『新しい自分』と出会ってくれることを期待しております」

なんとうれしい評価でしょう。アドベンチャーカウンセリングの担当者も元気づけられます。

次に、生駒市学生サポーターを受け入れてくださった特別支援教育コーディネーターの先生は、次のように評価してくださっています。

「来ていただいている学生さんは、とても研究熱心で、支援している子どもに使う1日の予定ボードなどの工夫もすばらしかった。また連絡をとりあうノートにも、支援で困ったことや疑問に感じたことを細かく書いてくれました。いつも給食を食べながら黙々とペンを走らせる姿に頭が下がります。子どもへの対応もすばらしい。がまん強く、冷静に、しかも愛情あふれた態度です。去年、来ていただいた学生さんもそうですが、今年の学生さんといい、学生さんのレベルの高さを感じます。きっと帝塚山大学のレベルの高さを反映しているのだと思います」

他の子どもたちとの交流に支障のある子どもたちのクラス「のびのびクラス」に参加した保護者の一人は、「その場で守らなければならない『ルール』があり、それを守ることがみんな楽しく過ごせるコツだということを、子どもは理解するようになりました。このクラスでは、『協力して活動すると楽しい』につながる工夫がたくさんあり、友だちとの関係作りが下手なうちの子にとって、『こうしたら仲良く遊べるのだ』とヒントがわかったようです。親たちは、のちに飲み会をしたり、公園に集合したりと、私たちも楽しかったです。情報交換の場としても、役に立ちました」

このように、私たちの大学教育推進プログラムは成功であった、と評価してよいのではないのでしょうか。

心理学部 大学教育推進プログラム シンポジウム

平成17年、「発達障害者支援法」の施行以来、発達障がいに関する支援がさまざまな場で実施されてきました。帝塚山大学では、過去3回のシンポジウムにおいて、思春期・青年期、成人期における支援について考えてきました。今回は学齢期のお子さんに焦点を当て、その現状について、スクール・ソーシャルワーク、臨床心理学、精神科医療の立場から3名のシンポジストをお招きして、学齢期の発達障がい児への適切な援助のあり方、今後の課題などを明らかにしていきたいと考えています。

当日は、他大学や本学の学生、医療機関職員、福祉施設職員、学校関係者、地域の方など、112名の参加者があり、アンケートには「今まで知っていたことも知らなかったこともきちんと聞いて勉強になりました」「様々な立場の先生方からお話が聞けて目の前が開けた感じがしました」などの意見が寄せられました。発達障がい児への理解を深めることができる機会となりました。今後の展望としては、発達障がい児の現状を理解するとともに、発達障がい児への具体的な支援につなげていきたいと考えています。



主題：「学齢期の発達障がい児への支援の現状と展望」

日時：平成23年11月26日(土) 14:30～17:00

会場：帝塚山大学学園前キャンパス 16602教室

コーディネーター：帝塚山大学 心理学部教授 大久保 純一郎

シンポジスト：帝塚山大学心理福祉学部地域福祉学科講師

周防 美智子

奈良教育大学教育実践開発研究センター 特任専任講師

大久保 千恵 氏

きょうこころのクリニック院長

姜 昌勲 氏

主催：帝塚山大学 後援：奈良県、生駒市教育委員会

プロジェクトチーム活動

1. のびのびクラス (たんぽぽグループ、ひまわりグループ)

日時：平成23年11月～平成24年3月の間の隔週
各グループ計8回

場所：帝塚山大学 心のケアセンター

「のびのびクラス」は、社会的場面において問題を抱える小学校1年生から4年生までの児童に対し、グループ活動を通してコミュニケーション力や社会的スキルの向上を目指し、発達を促すことを目的としたクラスです。昨年度に引き続き、「たんぽぽグループ」

と「ひまわりグループ」の2グループが実施されています。親子で別々に分かれてグループを形成し、子どもグループは工作や感覚遊びなどを行い、保護者グループでは、保護者同士が情報交換や体験を語り合う場を提供しています。

今回は「たんぽぽグループ」には5名、「ひまわりグループ」には4名の参加者がありました。この活動に14名の本学の院生や学部生が積極的にボランティアとして参加しました。今年度は、この活動を通じた卒業論文の提出もあり、実践的な学びの場となっています。

2. アドベンチャーカウンセリング

大阪府交野市教育委員会との教育提携

昨年度に引き続き、交野市内の小中学校でのアドベンチャーカウンセリング授業や教職員対象の研修を開始しました。平成23年度は長宝寺小学校・倉治小学校を対象に月2～3回のアドベンチャーカウンセリングを用いた授業を行っています。非常勤講師3名がファシリテーターとして、学生もアシスタントとして授業のみならず、休み時間や給食の時間においても子どもたちと関わり、サポートをしています。学生にとっても実際の授業だけでは得ることができない、小学校現場で活かすアドベンチャーカウンセリングを学ぶ機会となっています。



- 授業実施実績 長宝寺小学校での授業実施
平成23年10月～平成24年2月 授業回数11回 スタッフ派遣延べ(学生)24名
- 倉治小学校での授業実施
平成23年10月～平成24年2月 授業回数15回 スタッフ派遣延べ(学生)29名

大阪府立子どもライフサポートセンターにおけるアドベンチャーカウンセリング

大阪府立子どもライフサポートセンターでは、児童福祉法の範囲の児童の不登校支援・引きこもり支援を行っています。昨年度に引き続き、今年度も10月より月2回、平成24年3月まで計11回、入通所児童および職員に対してのプログラムを実施しました。今年度はおもにライフサポートセンター職員がファシリテーターとなり、本学教員がスーパーバイザーとし

てプログラムやファシリテーターのアドバイスをを行いました。

- 活動実績 平成23年10月～平成24年2月
参加学生延べ31名
- 今後の予定 平成24年3月8日(木)・22日(木)
※関西大学アドベンチャーコースでの実施予定

3. 学生サポーター派遣事業

昨年度に引き続き奈良県生駒市教育委員会との連携を中心に、その他には京都府教育委員会や大阪府八尾市立教育サポートセンターとも連携し、学生サポーターを小中学校や適応指導教室に派遣をしています。現在は小学校6校に6名、中学校1校に1名、適応指導教室に3名のサポーターを派遣しています。活動内容やその対象とする児童生徒も様々で、

学生サポーターたちにとってよい学びの機会になっています。各派遣先でしっかりと活動ができるように外部講師による派遣前研修会を実施し、派遣後の研修会では、派遣先での活動内容の振り返りや疑問についての話し合いを行っています。今後も研修会や事例検討会を行い、学生サポーターの活動を支援していきます。

心理福祉勉強会

発達障がい、虐待などの課題を抱える子どもたちが学校現場にはいます。そのような子どもたちを支援するためには心理・福祉・教育それぞれの分野の垣根をこえたチームアプローチをしていくが必要になってきます。チームとして、子どもと取り組む方法や、そのための心構え、それらを実践するために、何を学ぶべきかを理解するために、八尾市立教育サポートセンターの臨床心理士である大畑豊先生をお招きし、「子どもと関わるとは?—今までの臨床経験から学んだこと—」と題して、お話をいただきました。参加者は、教員1名、学部生25名、大学院生4名でした。すでにボランティアなどで活躍している学生や、これから活動することを考えている学生にもとてもよい学びの場になりました。



Live! TIES を実施

大学教育推進プログラムの取組として、12月9日(金)に交野市の小学校で Live! TIES を実施しました。

帝塚山大学のTIES(Tezukayama Internet Educational Service)というネットワーキング型教育システムの機能の1つとして、「Live! TIES」という遠隔指導などが可能なシステムがあります。交野市の小学校内で行ったアドベンチャーカウンセリングの授業を撮影し、このシステムを利用して、交野市の小学校と大学とを結び、大学にいるスタッフと会話やチャットによる双方向のやりとりをリアルタイムに行いながら、子どもたちの活動の様子などの解説を行いました。

12月9日(金)の活動内容としては、8名くらいの小グループに分け、シートとボールもしくはぬいぐるみを使用し、グループで協力しながら目標点まで一度も落とさずに運んでいくという活動を

行いました。子どもたちも目標点まで到達しようと必死に、しかし楽しみながら協力をしていました。この活動を同現場にて本学非常勤講師の小西浩嗣先生に解説をしていただき、大学にいなながらその様子をリアルタイムで感じることができました。



アドベンチャーカウンセリング研修会

この研修会では、「Live! TIES」で撮影した映像を使用して、交野市の小学校で活動している学生の振り返りに役立てることを目的としています。

本学非常勤講師の小西 浩嗣先生、西野 昌美先生と白鳥 司先生によるアドベンチャーカウンセリングの研修会を本学のプロジェクトチーム活動に参加している学生に向けて10月20日(木)に行いました。講義中には、これまでに撮影したアドベンチャーカウンセリングの映像を使用し、学生に対してアドベンチャーカウンセリングの手法を解りやすく説明する場面も見られました。また、このように映像で活動を見直すことで各先生方も学生の成長や課題を再確認する場となりました。



地域支援論Ⅱ

この授業は、平成22年度文部科学省「大学教育推進プログラム」に本学心理福祉学部が採択されたことを受けて、新しく開講したものです。対象者は、ボランティアを希望する学生や地域支援に興味のある学生などでした。授業内容は、前半と後半に分かれ、前半は本学地域福祉学科の才村真理の“子どもの虐待への理解と援助”などの授業を実施し、後半は本学心理学科の中地展生の“コミュニティへの危機

介入の実際”などの授業を実施し、前半後半共に本学心理学科の三木善彦からは“犯罪の加害者と被害者の和解は成立するのか?”などの授業が行われました。毎回の講義には、この分野に関心のある212名の学生が参加して、地域支援に関する知識を深めることができました。来年度も引き続き、地域支援論Ⅰ・Ⅱが開講されます。

アセスメント

1. e能力アセスメント

e能力アセスメントとは、学生が学生生活で身につけていく学力・人間力・社会力などの諸能力を評価していくために作られたTIESの機能の1つです。学生は各講義担当者が選んだ3～6の講義目標項目(「問題発見能力」「自己管理能力」「探究心」など)に自分が身につけたい能力の優先順位をつけ、15回の講義後にそれを自己評価(大いに身についた/まあ身についた/変わらない)していくことを基本としています。それ

に加えて、実習形式の講義やゼミナールなどでは、各担当者による評価もあわせて行います。

今年度では、いくつかの講義やゼミナールなどでe能力アセスメントを活用することができました。e能力アセスメントを実施したところ、1年間各講義やゼミナールを受講したことによって、学生の講義ごとに身につく諸能力の自己評価が上がったことがわかりました。

2. テキストマイニング

学生の成長を評価する1つの方法として、テキストマイニングという手法を用いました。テキストマイニングとは、自由記述文などの言葉や文章を分析し、新たな知識を得るといった手法です。実際、今年度では地域支援論Ⅰ・Ⅱ、カウンセリング

実習Ⅰ・Ⅱのレポートを対象に分析を行ったところ、例えば地域支援論Ⅰ・Ⅱの講義では、「支援」という語彙への興味関心があり、地域支援論Ⅰ・Ⅱを受講することによって、学生が様々な支援の現状や方法を知る機会となったと考えられます。

3. 外部評価者チェックシート

外部評価者チェックシートとは、プロジェクトチーム活動に参加している学生を対象に、学生の成長の変化を測定するために作成されたチェックシートです。e能力アセスメントの各項目などの評価基準項目をもとにしています。6月～7月にかけて、各プロジェクトチーム活動に関係している専門家に、外部評価

者チェックシートを用いたアセスメントを依頼し、実施しました。その後、1月～3月にかけて、のびのびクラスや学生サポーターなどに参加する学生を対象に実施しました。そこから、学生の成長の特徴を知ることができました。

外部評価委員会

平成24年2月28日(火)14時～16時に、春日ホテルで平成23年度帝塚山大学 大学教育推進プログラム「心理福祉分野の学士力基準構築と人材の育成」第2回 外部評価委員会を開催しました。

外部評価委員長の南 徹弘氏(甲子園大学心理学部教授・大阪大学名誉教授)や、井村 修氏(大阪大学人間科学部教授)、姜 昌勲氏(きょうこころのクリニック院長)の3名の外部評価委員の先生方が参加され、帝塚山大学からは蓮花心理学部・心理福祉学部長をはじめ7名の教職員が参加しました。なお、欠席をされた外部評価委員である辻村 泰範氏(宝山寺福祉事業団理事長)からは、後日、本取組に対してのご意見をいただくことができました。

約1時間かけて心理福祉教育推進室より、平成23年度の事業報告や、平成24年度の取組の実施計画の説明を行い、その後、質疑応答、意見交換の時間をもちました。外部評価委員には、本取組を高く評価していただくとともに、この取組に関わった学外の方や地域の方から学生の活動がどのように地域に役立っていたのかということの評価することの必要性など今後の課題に関してのご意見をいただくことができました。



編集・発行者

帝塚山大学 心理福祉教育推進室 〒631-8585 奈良市学園南3-1-3
TEL : 0742-41-4499 FAX : 0742-41-4491

http://www.tezukayama-u.ac.jp/special/gp/2010/education_reform/